



北見工業大学

短期交流研修報告書

---

Kitami Institute of Technology

Study Tour Report

第7回 国際大学生雪像彫刻大会

中国・ハルビン工程大学

2015年1月3日～1月7日



# 谷本純香

社会環境工学科 二年

## ハルビンでの一週間

私は今回、ハルビン工程大学で行われた雪像大会に参加しました。中国に行くのは初めてで、色々なことに驚きました。運転がとても荒く、クラクションをすごく鳴らす事、お店の店員さんの接客の態度がとても悪いこと、トイレにトイレットペーパーを流せないこと、空気がとても汚い事、シャワーが臭いことなど、マイナスのことが多く、中国に来てすぐに「日本に帰りたい」と思いました。

ハルビンはとても寒くて、お昼の気温が-23度という極寒の中、私たちは、アナと雪の女王に出てくるオラフというキャラクターの雪像を作りました。雪像作りは一度もしたことが無かったので、とてもワクワクしました。雪像は3.5m×3m×3mの雪の固まりを削って作っていくので力仕事が多く、二日目からは筋肉痛もあり大変でしたが、今回の研修は食べてばかりいたので、「とにかく運動だ!」と思い、たくさん削り、磨き、汗をかきながら作業をしました。

それに、私たちだけでなく、以前北見工大に在籍していた、留学生のランさんやコウさん、ハルビン工程大学のボランティアの方々に手伝ってもらったので、4日間の雪像作り期間がある中、3日目の夕方に他のチームよりも少し早く雪像を完成する事ができました。想像しているものと少し違うオラフでしたが、日に日に形作られていくオラフをみるのが楽しく、最後には愛嬌のある可愛いオラフをみんなで作ることができたので、達成感をすごく感じました。

雪像を作っていると、通りすがりの人が話しかけてくれたりしたので、たくさんの学生と交流をする事ができましたが、基本英語で会話をするので、英語の苦手な私はあまり会話ができず、自分の英語力の低さをあらためて知り、恥ずかしくなりました。

中国は日本をあまりよく思っていない人が多く、ハルビンは中国の中でも特に反日感情が強いと聞いていたので、少し不安でしたが、私たちが日本人と言って

もハルビンの方はフレンドリーに接してくれました。ニュースなどで反日デモの映像などを見ていたので、中国は反日感情がとても強いイメージがありましたが、現地に行ってみた中国ではそのような事はほとんどなく、昔より日本に対して悪いイメージを持つ人が減ってきたのかと少し嬉しく思いました。大気汚染についても私の想像以上に空気が汚れていて、ひどい時は雪像の表面が黒くなるほどでした。

中国に滞在したことにより、日本に住んでいる私にとって当たり前なのがハルビンでは当たり前ではなく、日本がどれだけ恵まれているのか改めて痛感しました。ハルビンでは雪像作りだけでなく、市内観光、トラのサファリパークや冰雪祭りにも行き、毎日いろいろな所へご飯を食べに行きました。今回の研修を通して一週間という短い間中国で生活し、大変なこともありましたが、それも含めて一日一日が濃く、自分を成長させる良い経験になったと思います。



# 荒川知子

バイオ環境化学科 四年

## ハルビン雪像大会で学んだこと

私は、7日間ハルビンに滞在し、ハルビン雪像大会に参加した。北見工業大学の雪像テーマはディズニー映画「FROZEN」に登場するキャラクター《オラフ》である。日中でも $-20^{\circ}\text{C}$ 前後とかなり気温が低く、空気汚染の影響で常にマスクをすることを強いられる過酷な環境のなかで、仲間とともに巨大な雪の像を作り上げた。この研修では、ともに参加した近藤くん、谷本さん、また、引率をしてくださった鈴木先生と、雪像を完成させるという目標を達成した、という達成感を共有することができた。前述したように、過酷な環境で、スキーウェアを着用し、手袋も二重にし、カイロを大量に貼っているのにも関わらず、肌に突き刺すような寒さで、耐えがたいものだった。そんなとき、仲間同士で「もうすこし！頑張ろう！」、「大丈夫？」と声を掛け合い、励ましあいながら完成させるという目標に向かい全員で頑張った。頑張っている仲間の姿をみて、自分ももっと頑張らなくては、と感じ、頑張ることができた。それだけではなく、4日間という限られた大会期間の中で、多くの方の協力と、応援があった。大会のボランティアの学生や、以前、北見工大に留学していた学生、通りすがりのおじさんまで、多くの方に手伝ってもらった。中には差し入れをしてくれ、最後には手紙をくださるボランティアの方もいた。本当に感謝！の一言に尽きる。

ハルビン雪像大会のプログラムでは、「Welcome party」として、各チームの紹介を行うパーティーや、夜やお昼の空いた時間に、ハルビン工程大学の学生ボランティアの引率による、シティツアーなど、様々なイベントが行われた。Welcome party と、ハルビンで行われている氷のお祭りを見に行くツアー、そして大会最終日に行われたシティツアーに参加した。大会開始の前日に行われた Welcome party では中国国外からの参加チームが集まり、大会のルールと雪像の作り方の基本など説明や各チームの紹介が行われた。ここで、司会を

務めていた、マイクとケリーと友達となり、マイクは大会期間中毎日応援に来てくれた。

新しい友達との出会いはこれだけではない。マイクと雪像の前で話していると、マイクの友人のケニア人とタイ人の女性二人が話しかけてくれた。彼女たちとも連絡先を交換し、ケニア人のロレーヌとは、メール友達となった。チューターとして、市内観光や、寮生活の手伝いをしてくれたテリー、ジョさん、以前工大に留学していたランさん、コウさん、多くの人と関わり、知り合うことができた。

今回の雪像大会で、多くの新しい出会いに恵まれ、多くの方の優しさに触れ、感謝の気持ちであふれている。その一方で、自身の言語の未熟さを痛感した。この経験を今後に生かし、さらなる語学力向上を目指し、また最後まであきらめず目標を達成することを大切に、大学生活を楽しみたいと思う。



# 近藤恵文

マテリアル工学科  
四年

## ハルビン研修を終えて

研究室の先輩から中国のハルビンでの研修があることを知らされ、自己負担分の費用が安いことや貴重な海外の機会という理由から、今回の研修の参加を決めました。

出発は1月でしたが、11月・12月でパスポート申請や参加する雪像大会で作製する雪像の案を練っていきました。中国に行くのは初めてのことで、歴史や文化や気候、また衛生面(PM2.5や食中毒など)で心配事は尽きませんでしたが、過去に同様の研修でハルビンに行った方からの指導により、しっかりと対策することができました。

往路では、北見の女満別空港から羽田空港へ。そこで一泊し、羽田空港から韓国の仁川空港を経由し、中国のハルビン空港に向かいました。国内で体調不良を起こしてしまった私ですが、雪像作りをするまでに何とか治さなければ！と、むしろ気合が入りました。

中国のハルビン空港に到着してまず思ったことは、とにかく寒い！です。北見の比ではありません。ボランティアのウーさんやジョさん、ハルビン工程大学の職員の方が迎えに来てくれて車で1時間ほど移動しましたが、車内も寒く、日本の比じゃないほど交通量が多く、内心とても怖かったです。

宿舎に到着し、部屋に案内されたものの日本の生活様式とは違い、少々戸惑いにはありましたが、快適に過ごせる部屋でした。

到着から2日後から本命の雪像作りに取り組みました。PM2.5が目に見える程でしたが、北見工大から支給されたマスクで事なきを得ました。それでもハルビンの寒さは過酷で、また雪像の雪が氷のように固く、作業は難航を極めました。

毎日夕方、日が落ちる頃に作業を終え、夕食のため町に繰り出しました。ボランティアのウーさんが店を案内してくれて、中国の料理を堪能しました。一つの料理が大体20元(約400円)で何種類か注文し、5,6人で

食べても余るほどでした。独特の香辛料が効いていて、どの料理もとても美味しかったです。

宿舎にはハルビン工程大学に在学している学生がいるので、色々な国の出身の学生と交流することができました。出身に関わらず皆中国語と英語が堪能で、私たちが会話をするときには基本的に英語でした。あまり英会話が得意ではない私ですが、なんとか会話が成り立っていたと思います。

市内観光では街並みを楽しみつつ中国の文化に触れることができ、世界的に有名なハルビン氷祭りも観光できたので有意義に過ごせました。

私は日本で他国の方々と交流する機会が少なく、引っ込み思案な面もありました。しかし今回のハルビン研修を経て、視野を広くしようと考えようになりました。このハルビン研修はとても良いチャンスだったと思います。

私のように今後海外へ行く人が増えることを望みますが、ハルビンに行くときはくれぐれも防寒をしっかりして行ってください！



# 鈴木衛

国際交流センター  
特任講師

## ハルビン雪像大会を振り返って

2015年1月4日（日）から7日（水）までの四日間、本学としては二年ぶり四回目となる中国ハルビン工程大学（国際交流協定締結校）での雪像大会に学生3名と共に参加してきました。これまで私自身先方大学には計3回訪問しておりますが、冬のハルビン及び雪像作りは共に初めての体験でもあり、個人的にも非常に楽しみにしていた研修でもありました。本大会は、今回で7回目を迎え、今年は中国及び海外の大学から全69チームが参加し、実施されました。日本からは本学の他、京都大学、高知工科大学の三校が参加し、各チームマイナス20度を超える極寒の中、雪像づくりに取り組みました。

初日（4日）は、まず、ハルビン工程大学劉志剛学長との面会が設けられ、本学からは参加させていただいたことに謝意を伝え、先方からは、大会期間中、思考力と体力を十分に活用し、頑張ってもらいたいとお言葉をいただきました。その後、すぐに雪像作りに取り掛かりました。今回の大会には、本学から近藤恵文さん（マテリアル4年）、荒川知子さん（バイオ4年）、谷本純香さん（社会環境2年）と私の男女各2名の混合チームで大会に挑みました。雪像は、縦横各3メートル、高さ3.5メートルの雪のブロックを四本のノミを使いながら削り、最後に鑪できれいに仕上げて完成させるというものでした。

本学チームは、昨年（2014年）世界的にも有名になった「アナと雪の女王」にでてくる「オラフ（Olaf）」の雪像を作成しました。なるべく剃る部分を少なくしたのですが、それでも初日は、不要な部分の剃り落としだけで時間が経ち、作業が終わるころには、手に力が入らないほど握力が衰え、作業の過酷さを実感させられました。しかし、オラフを通して、見てくれる人々が笑顔になり、幸せになってくれたらいいという願いがあったため、根気強く作業に取り組みました。



作業は二日目（5日）にさらに外形に近い形に整え、最終日を残して三日目（6日）で完成させることができました。私も学生達の足を引っ張らないように努力したつもりですが、やはり学生たちの芸術のセンスが勝り、最後の細かい作業は学生頼みになってしまい、私自身は台座の周りの除雪作業に精を出しました。三日間の作業では、現地ボランティア学生の協力の他、昨年（2014年）4月から8月まで本学に短期留学に来ていた伍思宇さん（機械3年）、ルワンファンさん（武漢科技大学）、それ以前に本学に留学に来ていた黄建勇さん（東北林業大学卒）も作業を手伝ってくれ、国を超えたオール北見工大のメンバーで雪像作りをすることができました。完成時には達成感を感じると共に、互いに協力して取り組めたことに対し、感慨深い気持ちになりました。学生達の見事な連携は素晴らしく、満足できるものに仕上げることができました。

オラフの雪像の完成を受け、小さな子供をはじめ、多くの人々が足を止めて見てくれ、写真を撮っていた光景が今でも鮮明に覚えています。また、作業過程では、現地の老婦が毎日お茶の差し入れをしてくれたり、通訳を通して学生達との会話を楽しんでいた光景が印象的でした。中国の東北地方はどちらかといえば反日意識が強いほうですが、今回の大会に関しては、非常に友好的な雰囲気満ちていました。本当に素晴らしい光景でした。

また、大会期間中は、ハルビン氷祭りや市内観光、学内でのパーティーなど多彩なプログラムが用意されており、私たちも参加して楽しみました。普段から、各チームにボランティアの学生がついてくれたこともあり、すべての場面において何一つ不自由することなく、大会期間中生活することができました。昼食と夕食もボランティアの学生達と食べたこともあり、いつも現地のおいしいお店で、満足のいく食事をすることができました。また、北見工大のOB・OGの短期留学生達（劉爽さん、伍思宇さん、ルワンファンさん、黄建

勇さん)が食事に招待してくれ、三回もご馳走になりました。本当に学生達には感謝しています。

こうして、1月4日(日)から開催された雪像大会も7日(水)の午前をもって作業が終了となり、当日午後の市内観光の時間を用い、厳格な審査が行われました。市内観光から戻ったのち、閉会式が行われ、結果本学は、「優秀賞」を受賞しました。結果自体は最も下位の賞(順に三位、二位、一位、特賞)ではありませんでしたが、私たちにとって重要なのは、賞よりも一緒に協力して完成できたことにあります。このことに皆誇りを持ち、清々しい気持ちの中、大会は幕を下ろしました。

最後に、期間中、主催者であります中国ハルビン工程大学の劉学長をはじめ、全教職員の方々、ボランティア学生の皆さん、本学OB・OGの学生の皆さん、ハルビン市民の皆さん、色々とありがとうございました。本学から参加した三名の学生にとってはじめての中国訪問になりましたが、日々多くの思い出を作ることができた大会になったと思います。私自身も今回の大会を通じ、①一つのことを最後まできちんと成し遂げる努力、②現地の人との交流による真の友情の構築、③一歩踏み出すことによる新たな出会いとの遭遇の重要性を認識しました。来年以降も本学が継続的に本大会に参加することは、両大学の人的交流の発展に寄与し、今後研究分野での学術交流への発展にも重要な役割を果たすものだと考えおります。是非とも、皆様にはこの点、ご理解を賜りますようお願いを申し上げ、帰国の報告とさせていただきます。



羽田→仁川



仁川→ハルビン



ハルビン空港到着



入寮



夕食



大学内スーパー



2日目朝



朝食



東北虎林園



サファリパーク内の虎



工大留学経験者との昼食会



場所抽選会



3日目 劉学長との面会



雪像大会開始



道具



踏み台



作業 1 日目



昼食



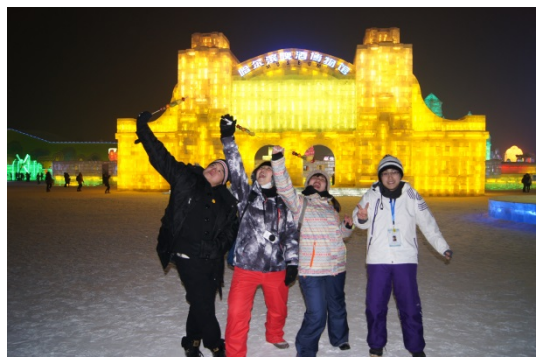
午後の作業



ランさんの応援



夕食



ハルビン氷祭り



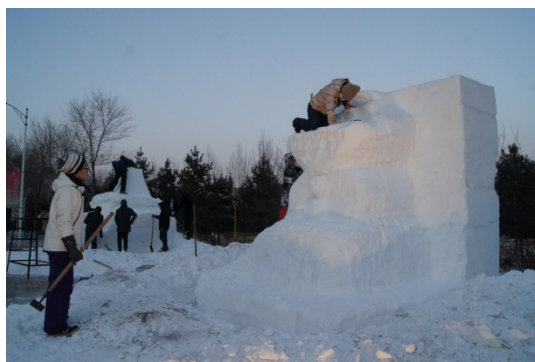
作業 2 日目



学生ボランティアも参加



作業 3 日目



完成間近



完成



夕食



38番 「オラフ」北見工业大学



中央大街 1



中央大街 2



松花江（河の上）



閉会式



優秀賞受賞



日本チーム合同晩餐会



ハルビン空港で最後の別れ



帰国（成田空港）

## 短期交流研修日程

日 程: 2015年1月1日(木)~1月9日(金)  
 場 所: 哈爾濱工程大学  
 用 務: 国際大学生雪像彫刻大会  
 引率者: 国際交流センター 鈴木 衛  
 参加学生: 社会環境工学科2年 谷本 純香  
           バイオ環境化学科4年 荒川 知子  
           マテリアル工学科4年 近藤 恵文

日 付	用 務	備 考
1月1日(木)	女満別空港発 15:00 JL1188 羽田空港着 16:55 【東横イン羽田1 宿泊】	谷本さんは函館発 NH554 12:30/14:00
1月2日(金)	羽田空港発 06:20 OZ177 仁川空港着 08:55 仁川空港発 12:20 OZ339 哈爾濱空港着 13:30 【哈爾濱工程大学国際寮 宿泊】	哈爾濱工程大学まで大学 関係者が送迎
1月3日(土)	登録日 【哈爾濱工程大学国際寮 宿泊】	東北虎林園
1月4日(日) ~ 1月7日(水)	終日 雪像コンテスト 【哈爾濱工程大学国際寮 宿泊】	
1月8日(木)	哈爾濱空港発 14:30 OZ340 仁川空港着 17:50 仁川空港発 18:50 OZ108 成田空港着 21:00 【成田エアポートレストハウス 宿泊】	哈爾濱空港まで大学関係 者が送迎
1月9日(金)	羽田空港発 12:35 JL1189 女満別空港着 14:20	谷本さんは函館着 NH555 13:15/14:35





北見工業大学 国際交流センター  
〒090-8507 北見市公園町 165 番地  
Tel : (0157)26-9370 Fax : (0157)26-9373  
Email : [kenkyu05@desk.kitami-it.ac.jp](mailto:kenkyu05@desk.kitami-it.ac.jp)